

今年も大規模な

シカ駆除を実施

九月二七日(日)、シカの食害が深刻化する香美市の三嶺山系で、昨年一月に続く二回目の大規模な駆除作業を行いました。この取組は、四国森林管理局や高知県、香美市、登山団体、地元猟友会等で自衛隊を含む約二三〇名が参加しました。(写真上)

各団体・機関等は包囲、通信、射撃などの役割分担に沿って連携、今年は、猟犬にシカを追わせ(写真下)、谷や沢筋でハンターが駆除する試みを実施し、計六頭を駆除しました。

早朝から入山した参加者は、それぞれの配置につき、午前一時半過ぎに駆除作業開始。約一時間半で昨年を上回る六頭を駆除する成果を挙げました。国や県、各団体等が多くの議論を重ね、これだけの体制で実行している意義を再確認しました。参加された局署員の皆さまご苦労さまでした。



誌上 森林環境教育

森林と水

概要

森林の土壌を通過してきた湧き水と学校近くの川から採集した水の水質調査を行い、それぞれの違いを明らかにする。

目標

- (1)水の汚れの違いから、森林の水源かん養機能を理解する。
- (2)生活排水などに注意することに気づく。

準備

湧き水、川の水、無色透明なガラスびん、塩素のパックテスト(理科教材店、大型雑貨店などで購入可能)

手順

- (1)湧き水を採集した場所と状況を説明し、それぞれの水の状態を理解する。
- (2)湧き水と川の水との違いを予想する。
- (3)水をガラスびんに移す。
- (4)・匂いをかぐ ・透明度の確認
 - ・水中を漂っているものがあるか確認
 - ・50回振って泡がたつか確認
 - ・パックテストで残留塩素を測定する。

まとめ

湧き水がきれいな理由、森林の働きを理解。川をきれいにするためにどうするか気づく。

(大日本山林会 日本の森林と林業より)

知っ得 豆知識

「渋柿と甘柿」って

山地で出会うヤマガキをはじめ、カキノキは渋柿(写真)が多い。

渋柿は樹上で渋が抜けるが、果実が軟化するまでは渋い。

甘柿は成長の後半に渋味を持つタンニン物質が固まり、水に溶けなくなるため甘く感じる。

これに対し、渋柿は成熟してもタンニンが固まらなかったり、部分的にしか固まらなかったりするので渋みを感じる。渋柿でも熟柿になると渋が抜ける。渋味の原因はタンニン物質(シブオール)で、これが消えるか水溶性から不溶性に変わることによって渋が抜ける。

甘柿は渋柿の突然変異種と言われ、日本原産ではない。渋抜きの方法として、アルコールや炭酸ガスを使う脱渋が実用化。

(子ども博士ニュース57号より)



編集後記

27研究発表課題を全署等から報告、本番に向けて準備方よろしく。 暦は10月。身体を動かし易い季節に、少し歩いてみるか(気持ちだけでも)。